

議事要旨

名称	阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりに関する意見交換会		
日時	令和5年12月19日(火) 18時00分～20時30分	場所	阿佐谷地域区民センター
出席者	○参加者： 杉並第一小学校保護者及び小学校移転予定地近隣住民等 30名 ●杉並区： 区長、政策経営部区政経営改革担当部長（事業調整担当部長）、政策経営部施設マネジメント担当課長、都市整備部長、都市整備部まちづくり担当部長、都市整備部市街地整備課長、都市整備部拠点整備担当課長（事業調整担当課長）、都市整備部都市企画担当課長（事業調整担当課長）、教育委員会事務局次長（学校整備担当部長）、教育委員会事務局学校整備課長		
次第			
1 開会あいさつ 2 出席者紹介 3 阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりに関する説明 4 意見交換 5 閉会あいさつ			
配布資料			
・ 次第、出席者一覧 ・ 阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくり意見交換会資料 ・ 振り返る会資料（10月19日・22日説明資料） ・ オープンハウスチラシ ・ 意見シート			
会議記録（要旨）			
1 開会のあいさつ ＜区長開会あいさつ＞ 阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりに関しては、みんなが同じだけの情報を持っているわけではない中で、できるだけ同じにしようと、特に杉一小的保護者に対してはそのような思いを抱いている。そして3回の振り返る会を通じて、たくさん頂いた質問、疑問、懸念に対して、なるべくわかる形で応えようと資料を作ってきた。結果として余計に複雑になったところもあるかもしれないが、伝え方を努力することによってできるだけわかりやすくお伝えしたい。北東地区の、杉一小的保護者・関係者にとっても大切な事業と考えており、さらに一歩情報共有を進め、皆さんの思いに可能な限り応え、1月に向けて取り組んでまいりたい。1月後半を目途に、これまで行ってきた振り返る会やこうした意見交換、またオープンハウスでのやりとりをとりまとめていきたい。本日は、皆さんの考えを聞いて、今の状況、私たちの思いを共有したいと思っているので、この事業について知っている量にかかわらず、遠慮なく話していただきたい。			
2 出席者紹介（省略）			

3 阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりに関する説明

(阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりを振り返る会の説明動画を上映後、都市企画担当課長、学校整備課長、拠点整備担当課長から補足の説明を行った。)

4 意見交換

(意見交換に先立ち、杉一小 PTA 会長から発言があった。)

- (杉一小 PTA 会長) : 平成 27 年に当時の A 案の話が出て、説明会に参加した記憶がある。平成 28 年に移転の話が出てきて、建て替えがどうなったのかと想像していたのが当時の印象。その後、ところどころと話が聞こえてきて、河北のところは平成 40 年ぐらいに移るらしいと聞き、卒業するから関係ないかなと思った。今年の夏ぐらいから、PTA にも意見を聞かれるのではないかと話題になっていた。

一口に保護者と言っても、北一丁目・北二丁目と住んでいるところが違い、近い遠いもある。また小 1 から小 6 までいて建替えに直接関係しないだろうと思うと、この件について意見を言いにくいところがある。なので、PTA として意見聞かれるとたくさんの方から言われてきて難しいと思っていた。2 学期頃から執行部にこの件を諮ってきた。そのなかでの共通項として、まず子どもたちの安全のため通学路の安全確保をしていただきたいこと、どちらの新校舎であっても教育環境が十分に整備されて教職員の人員等も含め今以上の教育環境を実現していただきたいこと、教職員の労働環境にも配慮した学校づくりを進めていただきたいということ。この三つを杉一小 PTA として正式に区に対して要望したい。

そのうえで、本日保護者、近隣住民が参加しているこの場での意見を踏まえて、区としての対応に反映していただきたい。保護者におかれては、この時間が子育てのゴールデンタイムなので来られない方も多かったと思うが、関心がないわけではないと思う。一方でこの件について実感を持っていない保護者も多いと思っているし、聞くところによると前区長がどうこうという話もあるようだが、PTA としてこういう話があったということは保護者にも伝えていきたいと思う。いずれにしても、今日この場に参加した保護者の方は、移転か、現地改築かにかかわらず率直な意見を言ってほしいと思う。区においては様々な立場の保護者がいるということ認識したうえで、子どもたちの教育のために立場にかかわらず配慮してほしいと考えている。

- (区長) : 大変配慮を頂いた意見に感謝する。今ここで何かということではないが、最後に言った、色々な立場を超えて何かの決定をしていかなければいけない。そして、そのときに子どもたちのことを一番に考えなければいけないというのはそのとおりと感じた。

(以下、意見交換要旨)

- 参加者 : 学校を現地でそのまま改築することはできないとすでに決まっているのか。協定のやり直しなどができないのか。また、自分が小学生の時は 5 クラスあったが、昔に比べるとクラス数が少ない。今後、児童はどの程度増えるの

か、現地だと定員オーバーになるということなのか。校庭が広がることは素晴らしいとは思いますが、なぜ移転が必要なのかが率直に疑問だ。

○参加者：現在の小1は2学級だが36人。移転したら1学級になってしまうのではと心配している。その対応はどのように考えているのか。

○参加者：10月の会にも出席した。移転によって児童が他校に行ってしまう、杉一小が無くなってしまわないかと心配。素敵なお学校なので嫌だと思っている。

○参加者：移転に対して疑問がある。なぜ移転しなければいけないのか。児童にとって園庭が大きくなる以上に何か意味があるのか。例えば広がってオリンピックに出るなら意味はあるが、子どもにとって広がる以上に何かメリットがあるのか。移転先がなぜあそこでなければいけないのかもわからない。移転にあたってみどりを色々想定していることはありがたい。河北病院跡地をなんとかしなければいけないなら、区役所が移転すればよい。区役所の場所は駅から近いから、商業ビルにしても便利。どうしても杉一が移転しなければならないのか。正しいことをやっているから「反対」とは思っていない。区民としてはA案もB案も望んでいない。自分の聖地、子孫を守るための場を選んだ歴史があるのだから、移転はしてほしくない。杉一を代々残したい。

●杉並区：杉一小を現地改築にできないのかという点については、資料5ページにもあるとおり非常に困難。移転を含めた区と地権者と病院の3つの協定があるほか、土地区画整理事業において仮換地指定を行っており、病院がすでに工事を始めており、まちづくりの取組のなかで地区計画を定めるなどの手続きを行っているなどしているところ。これら全てやり直すのは非常に難しい。

●杉並区：私たちの思いとして、杉一小を存続させることを前提としている。児童数の減少が心配なところはある。単学級になるとそういう声も出てくるところ、今の36人がぎりぎりなので子どもが通いたくなる学校とすることが大切。国全体で児童数の減少が見込まれているものの、当面は2クラスが維持されると見込んでいる。

児童にとってのメリットとしては、校庭が広がるであり、区内平均の半分以下、他学校と比べても狭小な校舎・校庭が目立っており、広い環境を作りたい。また校舎が老朽化しており何らかの手立てを近いうちにとらなければいけない。いったんは改修して維持しているものの、改築には取り組まなければならない。仮設校舎の期間が無くなれば児童の負担も減る。財政負担も減少する。事業がここまで進んでいる中で、借地とすることは学校のあり方として望ましくない。現地では非常に難しく、現計画では移転を計画している。この場所で過ごした学校への思いや思い出もあるとは思いますが、建物は何らかの形で建て替えなければならない。

○参加者：今の校舎がL字型になっており、半分ずつ建て替えるということではできないのか。また夏休み期間中に工事をするとかで児童への影響が無いようにできないのか。

●杉並区：工事音があり、また車両が入ってくるので安全性の面からすると、学校を運営しながら現地で建て替えることはできない。夏休みぐらいの短期間では改築

工事は終わらない。

- 杉並区：現在の校舎は日影規制導入前に建てられたもので、法規制の関係で現在と同じようには建てられない。また、現在の小学校の設備などを踏まえると 7,000 m² ほど必要となり、今よりも大きくなる。
- 参加者：自宅の隣に学校がやってくる。子どもたちが学校に通って学んだり遊んだりすることはとても大事だとは思いますが、終の棲家と決めて住んでいる側からすると、いつしかそれが苦情になってしまう。色々な行事で 365 日使い、子どもたちには楽しんでもらいたいが、声や音に色々な配慮をして楽しい学校が建つのかと思う。今の場所は誰にも気を遣うことなく児童がのびのび過ごしていると思うが、移転によって学校がいやだなと思ってしまうのではないかと。校舎が北に来るか南に来るかはあるかもしれないが、いっさい音が聞こえない、粉塵が舞わないなどが絶対に起きない環境はないと思う。決まってしまったら受け入れるしかないと思いつつも、最初の案では病院跡地に仮設校舎を建てて一定期間過ごすという話だったと思うが、知らない間に B 案が出てきて、病院跡地への移転が決まった。病院はもう工事が始まっているので仕方がない。学校については校舎、校庭が広がるのはよいと思うが、現地でなんとかできないのかなと思っている。
- （区長）：これまで会を重ねてきたなかで、学校関係者と保護者において一番の懸念だと感じている。これまで言われてきているのは、苦勞するのは保護者はもちろん、直接的間接的にしわ寄せが生じる子どもたちではないか、ということ。切実な心配、懸念を頂いている。これに対して答えることは難しいと思っている。区としては、両方の立場が対立関係にならないように最大の努力をしなければならない、区が長期的にかかわっていくという覚悟を背負っていかなければならないと考えている。
- 参加者：長期視点でというのは心強い。一方で「防災性の向上」というのが腑に落ちない。一つは水害。病院が 3~4m ほど低い土地となっており、雨が降ったら水が流れてくる場所ではないのか。事前に避難するときにはわざわざ下りていくことになるのか。イメージできない。もう一つは火災。前に特集番組を見たが、大震災による延焼で高円寺から阿佐谷にかけて危ない地域となっている。学校がわざわざ危険なところに近づくことになる。どう考えているのか。
- 参加者：区のアザードマップにおいて杉一小は水害時の避難所として開設されることになっているところ、学校を浸水に強く作っても回りが浸水しているときに避難所として開設されるのか。その場合、私たちはどこに逃げるのか。高齢者や災害弱者は 100~200m で逃げられるような杉一小であれば逃げられるのに、何百メートルも子どもを抱き、車いすを押し、ずぶぬれになって泥水の中を何キロも歩いて他の避難所に行かなければならない。アザードマップはそういうことを語っているのではないか。地震被害シミュレーションに関して、この地域は木造密集地域で、都の地域危険度において北一丁目は 3 だが天沼・本天沼は 4、高円寺は 5 のままなど。南には広域避難場所が指定されているが、そこに延々と狭いところを歩いて行かなければならない。中杉通りが延焼遮断帯になって

助かる道が残されており、沿道に杉一小があればそこに逃げ込むことができるし、杉一小か東原か広域避難場所は区の判断で指示される。病院跡地では逃げ込んでも火に囲まれて、また中杉通りまで出てこなければならない。中杉通りまでの距離の分だけ避難が遅れる。地域の人々の命がどこまで考えられてこの計画が出来上がっているかと思わざるを得ない。両方の面から防災性の向上が図られているかどうか、しっかり説明いただきたい。

○参加者：ハザードマップでは第二幹線の話が無く、整備によって浸水の色が薄くなるということはあるのかもしれないが、想定外は必ず起こる。2018年に阿佐ヶ谷駅が水没したが、中杉通りの地下に何か作っていたのにうまく機能せず、それも想定外で済ましてしまった。新しく何か作っても想定外が起こると思うが、それはどう考えるか。

○参加者：関東大震災のときの番組を見たが、火災旋風が起きて、避難場所の小学校跡地に逃げ込んだ多くの人々が亡くなっている。火災も下に向かうはずで、低地に避難場所を作るのはどうかと思う。

●杉並区：昔からこの地域における水害の対策が課題だった。学校そのものの対策や第二桃園川幹線の整備を順次進めており、一定の改善が図られる。ただ、百年に一度の大雨が各地で頻発しており、この地域に限らず、ハード面の対策とともに、区の補助等により宅地内での雨水処理などを促し、できるだけ雨水が流れ込むスピード・量を抑え込むという対策も講じている。100パーセントの対策ができると言い切れればよいが、区だけでなく、自助・共助というなかで地域の皆さんの力を借りながら解消していきたい。

●杉並区：資料2ページはこの事業始まる前の状況を示したもの。杉一馬橋公園通りは今5.5mのところ、消防車が入ってくるためには6m程度必要。道路整備により11.5mとすることとしており、併せて防災地区の指定の変更などを行うことで一体的な防災性向上を図っている。

●杉並区：水害は基本的に垂直避難であるのはそのとおり。基本は自助である。状況に応じて避難所を利用してもらおう。区の方で全く対策しないわけではなく、地域全体で考えて防災に関して取り組んでいけると考える。避難所を開設するかどうかは状況を踏まえて対応していく。2018年の大雨の時には移転候補地は水没していなかった。

●(区長)：垂直避難が前提、雨は事前に予測できる。大雨時は学校にいる子供たちを守ることが最優先。町会・商店会と意見交換した時も阿佐谷・高円寺の木密地域については対応すべき課題として話が出ている。災害が起こった時に地域と行政が協力し合って対応できるようにすることは区としても最重要課題と認識している。

○参加者：今の場所が避難所としてベストなので移転した先を避難所としてしないほしい。

●杉並区：杉一小跡地活用の考える際には一つの案として考えられるのではないか。

○参加者：区は区の発展と住民の命でどちらが大事なのか。

●杉並区：住民無くして区の発展を目指すことはあり得ない。避難所が今の杉一小の場

所にあることが大事であるのであれば、杉一小がなくても避難所をそこに設ける未来はあるのではないか。

○参加者：それでは地権者に避難所を作ることを約束してもらえるのか。

●杉並区：今現在約束はできない。

●（区長）：学校の跡地を考える際、防災が最重要であり、議論の起点として据えていかなければならない。このことは今の段階から地権者とも共有し、阿佐ヶ谷北東の未来を考えていくにあたって区が皆様の代表として責任をもって長期的な決意をもって取り組んでいかなければいけない。

○参加者：病院の跡地を学校にすることはありえないと感じる。区長は杉一の跡地を杉一にするという考えがあったのではないか。

○参加者：区民は再開発反対で岸本区長を選んだのではないか。環境の視点が必要と思っている。けやき屋敷が無くなったのは残念。緑を復活させてほしい。

○参加者：A案からB案へ変わったプロセスをしっかりと知らされていないのが一番の問題点である。学校運営協議会もその点に憤っている。このままで改築懇談会が出来るのか。朝7時30分から始まるジュニアバンドの騒音対策や水害対策も今の場所であればわざわざ対策の必要はない。移転することでこれまで培ってきた地域との信頼関係がなくなり、騒音で地域と対抗してしまう可能性もある。こういった会を作ってもらったことは前進だが、言いたいことを実現されるために今後も我々は活動していく。

●杉並区：病院の跡地に学校が出来たのは那覇市や箕面市で事例がある。河北病院の過去の事例もある程度把握したうえで病院の負担で土壤汚染対策をすることを約束し、3者の協定を定めている。緑の保全については地区計画や沿道緑化により、いままで個人で保全していた緑を地域全体で保全していく。

○参加者：移転改築案で校庭が広がる旨記載があるが、実用部分が増えていないのではないか。

○参加者：音楽室の防音対策とあるが、保育園が先に建っていたのに、近隣住民の苦情によりホールが使えなくなったと聞いた。近隣住民にその点情報提供していないのであればその点は問題ではないか。移転によって子どもたちを見守っていた近隣の方との関係が悪化することは悲しい。

●杉並区：校庭が広がった部分は、屋外倉庫やビオトープ等で活用が考えられるが、今後の設計で検討していく部分である。また、防音については標準の防音サッシ等級で資料を作成している。富士見丘中学校のように、中庭に面して音楽室を配置するなど、諸室の配置により音を軽減する工夫もある。現地改築で仮設の場合でも音の課題はあり、移転でも現地改築でも対応すべき課題であると認識している。

●杉並区：校庭面積の資料については一体で使える範囲を有効面積として算入している。入り組んでいる部分は面積に算入していない。

●杉並区：近隣に限らず保護者関係者への説明について、この間不足していたことは真摯に受け止め反省しているところである。説明会形式のものは令和元年の年末が最後だったと思う。まちづくりに関するニュース等も近隣に配ってはいたが、

不十分と言われればそれまで、情報不足により近隣の方とのトラブルが心配だという声は何をすれば完璧というのはないが、区としてしっかりやっていく。最初に対応していくのは学校だとは思いますが、区や教育委員会も様々な活動とおして地域と一緒に学校を作るためにどうしていくか対応していく。校庭に関しては昔からその狭さが学校運営協議会等でも議論になっていたと思うし、区としても建て替えの際の課題と考えていた。

5 閉会あいさつ

<区長閉会あいさつ>

区の計画通りに進めるためにこのような会を開いているのではないかというご意見もあったが、これについては私からご説明しなくてはいけない。

これまで様々な会を職員と準備してきたが、その中で私だけが違う意見を言うということとはできない。過去を変えることはできないが、私が就任した時点からこの状況を少しでも良くしていきたい、様々な関係者と理解を深めていきたいという思いで進めてきた。その気持ちは就任時点から今に至るまで全く変わっていない。令和元年以降は区からの情報が皆さまに十分に行き届いていなかったという状況の中で、区が何を進めてきたのかということをおし上げると、その間区では区画整理事業や3者が協力して事業を進めていくための協定の締結などを行ってきた。区画整理事業の一つとして道路事業を取ってみても、通常は区が税金を投入して道路の拡幅工事を行うところを、3者が協力し費用を負担し合いながら進めてきた。区が2者に学校の移転を申し出たことにより3者の協議が始まり、その中で最も良いと思われる計画を3者で検討してきた。これは利害の調整であるとともに、共通の目標に向かってどのように実行していくのかということの交渉であり、協力でもある。そして、それを覆すどうなるのかを考えるのが今の私の立場。反省すべきところは反省し、皆さんになるべく情報を開示し、皆さんの疑問に答えていくための道筋をつくっていきたくて考えている。より良い学校をつくって、学校跡地を皆さんのものにするために更に地権者と協力していく。今後の未来づくりについては、私が区長でいる限りは責任を持って良い未来をつくっていくことを約束する。そしてそれを皆さんと一緒に行っていきたくてというのが今の私の気持ち。

失われたものを取り返すことは難しく、決められた決定を根源から覆すということが区政全体にどのような影響を及ぼすのかということを考えるのが今の私の立場。その上で住民の合意形成ができていないものは一度立ち止まり、皆さんの意見を聞くということに関して何一つ無駄なことは無かったと思っている。学校跡地活用についても災害時の活用が最優先で検討される事項であるという重要な視点を教わったし、学校のプラスバンドの練習もパートごとに行うため音楽室のみを防音にしても意味がないということも皆さんに教えてもらった。皆さんの意見を聞いてこそ、より良い学校づくりができるということをおも職員も学んだ。

本日の会は決して皆さんを説得するためのものではなく、未来に向けて皆さんとの合意を少しでも増やすための取り組みであることを理解していただけたら幸いです。本日は本当にありがとうございました。